

## 「効果的な指導法，対応法を学ぶ」

障害児教育 上岡一世

### 1. 授業の目的

自閉症の障害を正しく理解し，障害特性や発達段階に応じた指導法，対応法の基本を体得する．

### 2. 到達目標

自閉症児に対する基本的な支援法，対応法が理解できる

障害特性，行動特徴を正しく観察，把握できる

学校卒業後の実態から，学校教育の在り方を論述できる

### 3. 授業の内容

- 第1回 授業のガイダンス，目的
- 第2回 自閉症教育の課題と目標
- 第3回 自立を実現する自閉症教育
- 第4回 ”
- 第5回 自閉症の障害特性と対応法
- 第6回 ”
- 第7回 自閉症児の行動特性と対応法
- 第8回 ”
- 第9回 効果的支援の実際
- 第10回 ”
- 第11回 成人自閉症者の指導
- 第12回 事例研究1
- 第13回 事例研究2
- 第14回 事例研究3
- 第15回 試験

### 4. 授業の進め方

この講義は，後期に愛媛大学教育学部附属特別支援学校での教育実習を行う学生を対象としていたので，教育実習で成果を上げることができるよう自閉症児に対する指導法，対応法の実際に力点を置いて展開した．具体的には教育実習で直面するであろう指導課題について，グループで検討

し合い，解決法を見出す形式を取り入れた．自閉症児への指導，対応は学校現場でも指導者が苦慮することが多いだけに，学生だけで課題を解決するにはかなりむずかしかったようであったが，事前に理論的な背景と，指導，対応のヒントを示し，自分たちで解決法を探ることができるよう配慮した．

### 5. 授業評価

授業改善のための調査は無記名で，以下の7点について行った．結果は次の通りである．

#### 授業への出席度

- ・すべて出席 12名
- ・1回欠席 8名
- ・2回欠席 1名

#### 授業の予習，復習などの自主学習

- ・よくした 1名
- ・時々した 20名
- ・しなかった 0名

#### 授業の理解度

- ・よく理解できた 6名
- ・理解できないことが少しあった 15名
- ・理解できないことが多かった 0名

#### 授業への参加意欲，受講姿勢

- ・高かった 18名
- ・どちらでもない 3名
- ・低かった 0名

#### 授業の内容，レベル

- ・ちょうどよい 14名
- ・難しい 7名
- ・易しい 0名

この授業を受けて勉強になったこと

(自由記述を抜粋)

- ・自閉症の障害特性に応じた対応が具体的に知る

ことができ、理解が深まった

- ・自閉症という障害についてとても詳しく知ることができた。効果的な指導法、対応法が分かった
- ・グループでの話し合いで、それぞれが自分の意見を出し合い意見交換できたことがとてもよかった。他の人の考えを聞くことが参考になる
- ・自閉症の特性の理解、その支援方法など実践に即結びつく内容であったので、興味が湧いた
- ・講義のすべてが自閉症についてだったので、詳しいことが学べてよかった。現場で役に立つと思う
- ・教育実習に行く前にこのような授業を受けておくことができよかった
- ・自閉症という障害について、なぜそうなるのかの原因を学ぶことができてよかった
- ・講義と具体的な事例検討がセットになっていたので授業内容がわかりやすかった
- ・場面を想定しながら事例検討ができたので実際に使えると思う
- ・受講する前に比べると自閉症を理解するための視点は持てるようになった
- ・具体的対応を自ら考えるきっかけにもなり、いろいろな方法を他のグループから聞くことができてよかった。正しい対応の仕方を探る過程が勉強になった
- ・もっと自閉症について知りたくなった
- ・自閉症について、理論と実際を合わせて知ることができて理解が深まった
- ・最初は課題解決できる考えがもてなかったが、最後には少しできるようになってきたのがうれしかった
- ・自閉症の子どもが抱えている困難とそれに対する支援法が理解できた
- ・自閉症にとっても魅力を感じるようになった
- ・教育実習で生かせるようがんばらなければという気持ちになった

この授業で改善すべきこと（自由記述一抜粋）

- ・シラバスの最後の方が聞きたかったが、時間がなく聞けなかった
- ・さまざまな指導法・支援法・対応法の資料を配って欲しかった。そうすればもっと詳しく理解できたと思う
- ・グループでの話し合いが、時間が取れずうまくいかなかった。もう少し時間を確保して欲しい

・映像で具体的な支援方法を見せて欲しい

- ・どのように話し合いをすればよいか、その観点をもう少し詳しく示して欲しい
- ・事例発表では発表だけで終わって、理解が曖昧なまま終わったところがあったので、はっきりとしたまとめをして欲しい

## 6. まとめ

・到達目標について

この講義では、毎回、最初に自閉症の障害特性や基本的な障害理解について講義した後、自分たちで課題を解決すべき具体的な事例を挙げてグループで話し合いをさせた。そして最後に全体の場で発表させ、まとめる形式を取ったので、学生達も見通しを持って講義に臨むことができたように思う。学生の評価を見るとおおむね当初の目標は達成できているように感じる。昨年の講義では理解できない人が多かったが、今回は0で大幅に改善できたと思っている。このことは授業の内容、レベルについても、ちょうどよいが14名（66%）いたことから伺える。

・学生の受講姿勢

授業への参加意欲が高かった者が21名中18名（85%）とかなりたくさんいた。また、講義への出席もすべて出席の人が12名（57%）、1回欠席が8名（38%）で高かった。一方的な講義ではなく、話し合い活動を取り入れたのが効果的であったと思われる。

・自主学習

予習、復習などの自主学習は、よくした、時々したを合わせると21名（100%）と高かった。これは課題を自分たちで解決し、発表する機会を多くしたため、自分で文献を調べたり、自主的にグループで話し合ったりできたことがよかったと思う。

・次年度への課題

受講生には、発達障害コースで障害について専門に学んできた学生と他の教科コースであり専門的知識のない学生ががいるので、授業内容のレベルを合わせるのがなかなか難しいところがある。今回のように具体例などを提示し、お互いに話し合う機会を作ることでギャップを埋めることが必要である。授業がむずかしかったと答えた7名の学生がすべて他教科コースの学生であることを考えると、次年度はさらに検討の余地がある。